

戦争は絶対やってはならない。日本の平和憲法を守ることは大切である。

親子兄弟仲良く、よく働いて暮らせよ。

抑留中の労苦記録

山梨県 後藤 茂

(一) 出生から入隊まで

①どこで出生……山梨県南都留郡忍野村内野

②いつ出生……大正十一(一九二二)年十一月十六日

③学校……忍野小学校高等科卒業

(二) ソ連軍侵攻前

①いつ入隊……昭和十八(一九四三)年二月二十日

現役

②入隊場所……甲府四九連隊入営

昭和十八年三月二十六日出征 渡満

北安第六八六部隊 四月一日入隊

③駐屯地……北安省北安

戦地……満州国

(三) ソ連軍侵攻をどこで受けた

①いつ……昭和二十年八月十日夜中

②どこで……孫呉地区国境陣地内。

③どんな状況で……特設塹壕陣地内で対戦した。

(四) 終戦

①詔勅……直接は聞かなかったが、八月十七日、部隊長から聞いた。

②感想……日本が負けるとは思わなかったが、これで生きて日本に帰れると嬉しかった。

③どう終戦したか……孫呉の兵舎が收容所となり、捕虜となる。

④武装解除から收容所入りまで……孫呉收容所で作業隊編成、千人くらいずつ徒歩で三日くらい歩いてブラゴエンチェンスクに船で入った。

(五) シベリア抑留地への移送

①いつ頃……昭和二十年九月三日ごろ、船でニコライエフスク着

②この地点からどこへ送られた……孫呉の収容所から徒歩三日歩き、船でニコライエフスクに着いた。

何日くらい……三日くらい

③第一次入ソ場所……ニコライエフスク
いつ……九月三日ごろ

(六) 抑留地の生活

①第一次収容所どこ……ニコライエフスク

収容人員……四千人

②生活の様子……木造丸太積み宿舍二段ベッドで、一棟百人くらい居住した。電気が暗くて不潔だった。

住まい……四千人も集まったので大変混乱した。

食事……黒パンと雑穀だけ。量も少なかった。

仕事……伐採、建設、町づくり手伝い

衣服……着たまま

入浴……三カ月に一回くらい

シラミ……たくさん出た

南京虫等……なかった

伝染病……出なかった

③作業の状況

主作業……伐採、建築、床掘り、土方仕事が多かった。

ノルマ達成状況……ノルマはなかった、働くだけでよかった。

単位……グループで一緒に作業した。

中隊または収容所……割合軽作業だった。三級程度の弱者が多かった。

グループ……二十人くらい

④給与……一度も貰ったことはない。

(七) 労役

①どういう労役についたか……山林伐採、市内建物

建設

②収容人員……四千人

宿舍……丸太積み宿舍一棟、百人くらい入った。

二段ベッド式。

③冬最低温度……零下四五度

冬はどうして生活したか……薪を燃したペチカで

暖をとった。

労役が一つに止まらないときはどうしたか……使役に出た。

④ 労役の時間……一日八時間、朝八時から夕方五時まで

内容……伐採作業は山が遠かったので往復が大変だった。

⑤ 労役に堪えられない者はどうされたか……三級以下の体力のない人は入院させられた。

⑥ 健康管理は……特別になし。月一回、女医の健診があった。食料が少なく、皆、栄養失調となった。

⑦ 常日頃健康を保つ上で役に立つことは……気力だけだった。皆の助け合い。

⑧ 衣服について扱われたことは……支給なし。手袋と防寒靴はもらった。

(八) 抑留者の統制管理

① 労役につく基準……特になし。動ける者は皆、働かされた。

② 労役免除……熱が三七度以上になれば病人と認められたが、熱のない病人は認められず働かされた。

③ 健康管理……食事を大切に食べた。野草、ヘビ、カエル。

④ 点呼・作業場への出入……朝と晩、仕事の出入、衛門で。

⑤ 着衣・衣服……着たままで補給なし。

⑥ 食事の状況……定量の表示はあったが、いつも欠配で、ピンハネされた。

⑦ 休日……日曜、休日は労働はないと決められていたが、収容所内の仕事に駆り出された。

⑧ 収容所施設、構造……丸太積みみのログハウス。半地下式だった。

⑨ 洗脳教育……なかった。

⑩ 収容所生活全般……食事が少なく、いつも腹が空いていた。しかし、軍隊のように上からの締めつけはなかった。

⑪ 懲罰……なかった。

(九) 抑留中の生活と極限状態

① 乗りこえてきた信念……一度日本に帰りたいたいの
一心だった。

② 生死の境、死に直面したときの感想……家の者の
夢を見るが多かった。

③ 心身を支えた工夫……気力だけだった。一度、腹
いっぱい食べてみたいと思った。

(十) 帰還

① ダモイをいつ、どこで聞いたか……ニコライエフ
スクの作業所で聞いた。

② 集結地……ナホトカへ。

③ 乗船名……高砂丸(病院船) 昭和二十二年七月二
十七日

④ 船内生活……平穏だった。

⑤ 上陸地……舞鶴港入港

⑥ 収容期間……昭和二十年九月一日―二十二年七月
二十七日、一年十一カ月

(十一) 帰国後の生活

一年間は栄養失調で何もできなかった。その後は

家業の手伝い、農業で生活した。

(十二) 最後に子孫や国民に言い遺したいこと

1 これからは戦争すべきでない。

2 家じゅう仲良く、よく働くことが大切だ。

3 親を大切にしないさい。

抑留中の労苦記録

山梨県 天野 九二三

(一) 出生から入隊まで

① どこで出生……山梨県南都留郡忍野村内野

② いつ出生……大正九(一九二〇)年三月二十日

③ 学校……忍野村立小学校高等科二年

(二) ソ連軍侵攻前

① いつ入隊……昭和十七(一九四二)年十一月二十

七日 召集

② 入隊場所……東京麻布 東部第八部隊

東京麻布 第一輜重連隊